

文学部

## GIS（地理情報システム）を活用した木頭ゆず栽培地の電子地図の製作

—文学部文化財学科（香川キャンパス）の学生が那賀町木頭南宇地区を訪問して現地調査—

地理学・環境歴史学を学ぶ文化財学科の2・3年生11人と教員2人が徳島県那賀町木頭南宇地区を訪問し、現地調査を行いました。

現地では、2～3人1組の5チームを編成し、GISマップの調査図をもとに、水田からゆずへの転作・栽培の現状を、耕地1枚ごとに確認調査を行いました。また、生産者の方々への聞き取り調査、さらに収穫や加工方法の指導を受けて地域の実情を深く体感できたフィールドワークとなりました。

これは徳島県の「県南地域づくりキャンパス事業」の一環で文化財演習の学外授業として実施したもので、2016（平成28）年度内に電子地図を完成させて現地

報告会で公開、さらに県や町に提供して、産地振興と活性化に活用していただく計画です。

この取り組みは、2016（平成28）年11月19日（土）の徳島新聞に掲載されました。



ゆず畑の位置を確認し地図に書き込む学生と古田教授



地区代表の方々と調査マップを検討

高大連携

## 教員をめざす学生と海部高校生等と一緒に地震・津波から命を守り、地域の文化財等を活用した地域活性化の取り組み

—アクティブ・ラーニングの視点を踏まえて—（徳島キャンパス）

2015（平成27）・2016（平成28）年度と教育課程総論等講義のシラバスに位置づけ、前期・後期各1回終日かけ徳島県海部郡美波町・海陽町（旧海南町・旧穴喰町）へ出向き、履修学生・海部高校生・海陽町教育委員会等と一緒に地震・津波から命を守り、地域の文化財等に新たな付加価値をつけ、地域の活性化につながるアクティブ・ラーニングの視点を踏まえ実施した高大連携学外合同学習の一端について紹介します。

### 2015（平成27）・2016（平成28）年度の取り組み

海陽町の全国に誇れる「海部刀」（県・町指定文化財）、「大里古墳群」（県指定第1号）、海部高校の津波防災教育、日本最古の津波碑「康暦碑」、津波避難山への避難体験、古文書『震潮記』を現代語訳した旧穴喰町の歴史家 田井晴代氏による「愛宕山」での現地学習、昭和南海地震から70年を迎え、甚大な被害を受けた浅川の地震・津波碑から学ぶ取り組みをブレンストーミング・KJ法等を活用しながら、本学学生・海部高校生・小学生・海陽町教育委員会・地域のボランティアの方々等と一緒に現地で学ぶ取り組みを行いました。事前学習として「釜石の奇跡」（釜石小学校）、「大川小学校」等の資料・映像等を活用しながら、教師としての判断・危機管理・正常性バイアス等さまざまな視点で一人ひとりが自らの課題として捉え積極的に学習に取り組みました。事後学習として、班別レポート、個別レポート・学習指導案（一人ひとり）の作成、模擬授業の実施・評価とつなげました。その後、学生代表が海陽町主催の地震・防災シンポジウムにパネラーとして参加し、海陽町の地域の課題解決や地域の活性化に向けた提言等の意見交換を行いました。

**【実施日】** 2015（平成27）年度：前期／6月27日（土） 後期／11月8日（日）  
2016（平成28）年度：前期／6月11日（土） 後期／12月17日（土）

**【参加者】** 2015（平成27）年度：徳島文理大学生（教育原理・教職概論・教育課程総論履修生）（前期40人、後期34人）、海部高校生（前期13人・後期15人）、海陽町教育委員会・海部高校教員、地域ボランティア等  
2016（平成28）年度：徳島文理大学生（教育課程総論履修生）（前期31人、後期28人）、海部高校生（17人）、小学生（30人）、海陽町教育委員会、海部高校教員、地域ボランティア等



過去400年間に20m級の津波が複数回起きた愛宕山避難場所（旧穴喰町）にて



県指定第1号の大里古墳群



『震潮記』を活用して田井晴代氏から学ぶ